

## 三和石産

建設業に欠かせないコンクリート。建設現場で実際に使われなかった廃材のコンクリートに目を向け、再生技術を開発したのが横浜市の生コン会社、三和石産だ。環境対応が盛れ気味の同業界で10年前から独自に研究を開始。2013年に再生原料の販売を始め、神奈川県内で徐々に販売網を広げ、自治体を中心に採用例が増えつつある。

藤沢市の工場敷地内で「グリーン」と書きたる高床の装置。内部では再生セメントを乾燥させ、粉状にする工程の最終段階が進んでいる。この再生セメントに砂や石を混ぜた製品が、同社が販売するハイブリッ

# 神奈川のエンジン

## 余剰コンクリは資源



コンクリートから取り出した再生セメントを乾燥機をとおして粉状にする（藤沢市）

## セメント取り出し再利用

ドドライモルタルだ。セメントを用途し、使わなかった分は製造工場に戻している。費用がかさむほか、生産量とも可能だ。セメントに含まれる材料を加え、水を混ぜてこの廃材は「戻りコン」と呼ばれ、国土交通省による建設現場では予備呼ばれ、

（会社概要）

▽本社	社 藤沢市宮前町神之根710
▽設立	1964年
▽売上高	120億円（2014年度、グループ全体）
▽従業員数	300人

と出荷量の約1・6%を占める。前年度ではこの数字が3%程度まで高くなる傾向があるという。

戻りコンは道路工事などで一部が使われるほかは、

利用は進まなかった。

感る利点もある。

「戻りコンが生まれるのは仕方ない。ただゴミとして捨てるのはもったいな。川崎市や横浜市の生コン業者と30年以上の経験をもつ中田泰司社長は戻りコンを再利用する長は戻りコンを再利用する方を考えた。試したのはブリッドドライモルタルは「流再生」。戻りコンを砂や石、セメントに分離し、乾燥させればセメントの成分を粉状にして取り出せる。実績も上がりつつある。

「再生セメントの成分がセメントの用途は多岐にわたる。自分だけが手だから」と中田。建材産所で使えばよいと笑う。しかし根底にあるのは、高度成長期の建設ブームの責任感だ。「全国で再生コン業者に広めるため、今後業界内で働きかけていく」と話している。

# 神奈川

編集室 045-2601-2551  
印刷室 044-2352-7700